

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-76830

(P2014-76830A)

(43) 公開日 平成26年5月1日(2014.5.1)

(51) Int.Cl.
B65D 83/08 (2006.01)F I
B65D 83/08テーマコード (参考)
3E014

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2012-225836 (P2012-225836)
(22) 出願日 平成24年10月11日 (2012.10.11)(71) 出願人 000006769
ライオン株式会社
東京都墨田区本所1丁目3番7号
(74) 代理人 100064908
弁理士 志賀 正武
(74) 代理人 100108578
弁理士 高橋 詔男
(74) 代理人 100094400
弁理士 鈴木 三義
(74) 代理人 100152272
弁理士 川越 雄一郎
(74) 代理人 100153763
弁理士 加藤 広之

最終頁に続く

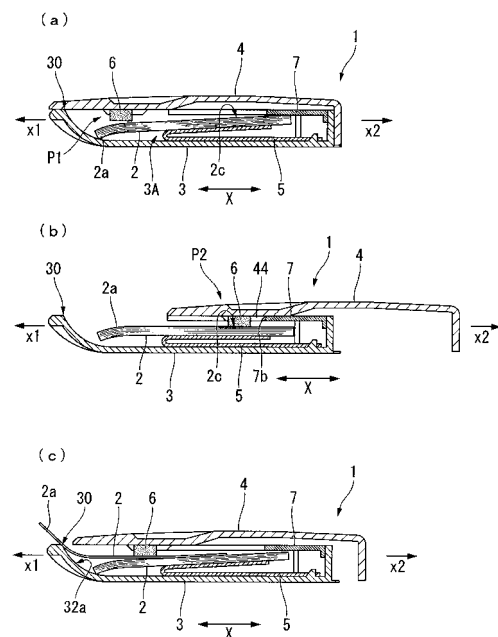
(54) 【発明の名称】 フィルム容器

(57) 【要約】

【課題】取り出し時におけるフィルム状部材の変形を防止し、フィルム状部材を1枚ずつ確実にかつ容易に取り出すことができる。

【解決手段】フィルム2を収納するとともに、フィルム2を1枚ずつ取り出すための取出し口30を有する容器本体3と、容器本体3に、その容器本体3の上端開口に沿ってスライドする開閉自在に設けられた開閉蓋4と、収納されたフィルム2における開閉蓋4の開閉方向の開方向側部分を、閉方向側部分よりも上方に位置するように弾性的に押し上げるばね部材5と、開閉蓋4の裏面に突設された送出し部6と、を備え、開閉蓋4は、送出し部6が容器本体3内に収納されているフィルム2に対して接触しない非接触位置P1と、ばね部材5の押圧力に抗しつつ、送出し部6でフィルム2の上方から摩擦力を付与する摩擦発生位置P2と、の間を開閉範囲とする構成のフィルム容器1を提供する。

【選択図】図6



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

フィルム状部材を収納するとともに、該フィルム状部材を 1 枚ずつ取り出すための取出し口を有する容器本体と、

該容器本体に、その容器本体の上端開口に沿ってスライドする開閉自在に設けられた開閉蓋と、

を備えたフィルム容器であって、

収納された前記フィルム状部材における前記開閉蓋の開閉方向の開方向側部分を、弾性的に押圧する押圧部と、

前記開閉蓋の裏面に突設された送出し部と、

を備え、

前記開閉蓋は、前記送出し部が前記容器本体内に収納されている前記フィルム状部材に対して接触しない非接触位置と、前記押圧部の押圧力に抗しつつ、前記送出し部で前記フィルム状部材の上方から摩擦力を付与する摩擦発生位置と、の間を開閉範囲とすることを特徴とするフィルム容器。

10

【請求項 2】

前記容器本体は、開閉方向で閉方向側の上端開口から底部に向かうに従って漸次、前記開方向側に向かって延在する傾斜面、又は湾曲面が形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載のフィルム容器。

20

【請求項 3】

前記送出し部の下面には、摩擦抵抗材が設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のフィルム容器。

【請求項 4】

前記容器本体には、収納されている前記フィルム状部材を上方から保持する押さえ付け部が設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のフィルム容器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、フィルム容器に関する。

30

【背景技術】**【0002】**

従来、この種のフィルム容器として、例えば下記特許文献 1 に示されているような、容器内に收容された例えばフィルム歯磨等のシート状部材の束から 1 枚ずつフィルム状部材を取り出すことが可能なフィルム容器が知られている。

このようなフィルム容器は、フィルム状部材を収納するとともに、このフィルム状部材を 1 枚ずつ取り出すための取出し口を有する容器本体と、容器本体に摺動自在に取り付けられた開閉蓋と、容器内に收容されるフィルム状部材を開閉蓋の内側面に向けて弾性的に押圧する押圧部と、開閉蓋の開動作に伴ってフィルム状部材を送り出すように開閉蓋の内面に設けられた摩擦抵抗部と、開閉蓋の開動作に伴う摩擦抵抗部によるフィルム状部材の後退動を阻止するように容器本体に設けられたストッパー部と、を備え、開閉蓋の開閉により底部のパーツが立ち上がることで、開閉蓋とフィルム状部材に摩擦を生じさせることができる。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特許第 4 6 1 9 2 9 4 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

50

しかしながら、従来のフィルム容器では、以下のような問題があった。

すなわち、上記した特許文献１のフィルム容器では、容器本体内における開閉方向の開方向側に押圧部があり、フィルム状部材の前部（取出し口側）を押し上げている。そのため、開閉蓋を開く際に、収容される最上層のフィルム状部材が開閉蓋の摩擦抵抗部に常に接触する状態になっていることから、開閉蓋を開ける時点からフィルム状部材に摩擦が付与され、摩擦抵抗部に接触したフィルム状部材が開閉蓋とともに後方（開方向側）へ引きずり込まれてしまい、フィルム状部材を変形させてしまうという不具合があった。そのため、変形したフィルムを取出し口側へ向けて送り出しにくくなり、フィルムの取り出しが難しくなるという問題があった。

【０００５】

10

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、取り出し時におけるフィルム状部材の変形を防止し、フィルム状部材を１枚ずつ確実にかつ容易に取り出すことができるフィルム容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記の目的を達成するために、この発明は以下の手段を提供している。

本発明に係るフィルム容器は、フィルム状部材を収納するとともに、該フィルム状部材を１枚ずつ取り出すための取出し口を有する容器本体と、該容器本体に、その容器本体の上端開口に沿ってスライドする開閉自在に設けられた開閉蓋と、を備えたフィルム容器であって、収納された前記フィルム状部材における前記開閉蓋の開閉方向の開方向側部分を、弾性的に押圧する押圧部と、前記開閉蓋の裏面に突設された送出し部と、を備え、前記開閉蓋は、前記送出し部が前記容器本体内に収納されている前記フィルム状部材に対して接触しない非接触位置と、前記押圧部の押圧力に抗しつつ、前記送出し部で前記フィルム状部材の上方から摩擦力を付与する摩擦発生位置と、の間を開閉範囲とすることを特徴としている。

20

【０００７】

本発明では、容器本体に収納されたフィルム状部材を取出し口から取り出す際、開閉蓋が閉じられた状態で、開閉蓋を非接触位置から前記開方向側にスライドさせて摩擦発生位置まで開蓋すると、フィルム状部材の開方向側部分が弾性的に押圧されているので、前記送出し部とフィルム状部材の上面とが接触しつつ、フィルム状部材の上方から摩擦力を付与することができる。そして、摩擦力が付与された摩擦発生位置から開閉蓋を開方向側に向けてスライドさせると、送出し部とフィルム状部材との摩擦により、送出し部と接触しているフィルム状部材のみが取出し口側へ送り出され、そのフィルム状部材の開方向側部分を取出し口から突出させて、取り出すことができる。

30

【０００８】

この場合、フィルム状部材における非接触位置において、開閉蓋の裏面に突設されている送出し部がフィルム状部材に接触することがない。そして、開閉蓋を開方向側に向けてスライドさせることで、フィルム状部材の上面に対して送出し部が近接し、少しずつ滑らかに接触しつつ、さらにフィルム状部材の開方向側部分が押圧部によって押圧されているので、開閉蓋の摩擦発生位置において送出し部とフィルム状部材との間で摩擦力が得られることになる。すなわち、開蓋開始時は非接触状態なためフィルム状部材を送出し部で開方向側に引き込むことがなく、送出し部がフィルム状部材の開方向側部分に接触する位置に移動したときに、所望の摩擦力が送出し部からフィルム状部材に付与されることになる。そのため、フィルム状部材が開閉蓋の開方向側への移動とともに送出し部によって引き込まれることによって変形するのを抑制することができ、送り出しがスムーズに行えらるとともに、取出し口から取り出した状態のフィルム状部材の品質を確保することができる。

40

【０００９】

また、上記本発明のフィルム容器では、前記容器本体は、開閉方向で閉方向側の上端開口から底部に向かうに従って漸次、前記開方向側に向かって延在する傾斜面、又は湾曲面が形成されていることが好ましい。

50

【 0 0 1 0 】

この場合には、送出し部によって閉方向側に向けて送り出されたフィルム状部材の閉方向側の先端を、容器本体の傾斜面、又は湾曲面に沿って取出し口に向けて誘導させることができる。つまり、開閉蓋は閉蓋するに従い押圧部による押圧力が解放される非接触位置に移動し、送出し部がフィルム状部材から離れ、フィルム状部材と送出し部との間に生じる摩擦力が低下する。このとき、前記傾斜面、又は湾曲面に沿ってそのフィルム状部材の先端部分が上向きに押し上げられるので、送出し部とフィルム状部材との接触状態を保つことができる。そのため、送出し部とフィルム状部材との間の摩擦力の低下が抑えられ、傾斜面、又は湾曲面に沿って取出し口側にフィルム状部材の先端部分が案内されてその先端部分を取出し口より突出させることができる。

10

【 0 0 1 1 】

また、上記本発明のフィルム容器では、前記送出し部の下面には、摩擦抵抗材が設けられていることが好ましい。

【 0 0 1 2 】

これにより、送出し部とフィルム状部材との摩擦力を高めることができ、より確実な送り出しを行うことができる。

【 0 0 1 3 】

また、上記本発明のフィルム容器では、前記容器本体には、収納されている前記フィルム状部材を上方から保持する押さえ付け部が設けられていることが好ましい。

20

【 0 0 1 4 】

この場合には、開閉蓋が非接触位置にある場合であっても、容器本体内で収納されているフィルム状部材を押さえ付け部によって所定の高さに保持することができる。そのため、最上層に位置するフィルム状部材の高さが収納されるフィルム状部材の枚数によって変動することがなく、常に一定の摩擦力をフィルム状部材に付与することができるので、安定した取り出しが可能となる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 5 】

本発明に係るフィルム容器によれば、取り出し時におけるフィルム状部材の変形を防止し、フィルム状部材を１枚ずつ確実にかつ容易に取り出すことができる効果を奏する。

30

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 6 】

【 図 １ 】 本発明の実施形態によるフィルム容器の斜視図である。

【 図 ２ 】 図 １ に示すフィルム容器の開閉蓋を開けた状態の斜視図である。

【 図 ３ 】 フィルム容器の縦断面図である。

【 図 ４ 】 フィルム容器を上から見た図である。

【 図 ５ 】 開閉蓋を裏面側から見た平面図である。

【 図 ６ 】 (a) ~ (c) は、フィルム容器からフィルム状部材を取り出す工程を示した図である。

【 図 ７ 】 他の実施形態によるフィルム容器の縦断面図である。

40

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 7 】

以下、本発明に係るフィルム容器の実施形態について図面を参照して説明する。

図 １ 及び図 ２ に示すように、本実施形態のフィルム容器 １ は、例えばフィルム歯磨や油取り紙等のフィルム ２ (フィルム状部材) を収容するとともに、そのフィルム ２ を １ 枚ずつ取り出し可能な樹脂製のプラスチック容器である。

【 0 0 1 8 】

そのフィルム容器 １ の概略構成としては、図 ３ に示すように、フィルム ２ を収納するとともに、フィルム ２ を １ 枚ずつ取り出すための取出し口 ３ ０ を有する容器本体 ３ と、容器本体 ３ に、その容器本体 ３ の上端開口 ３ ａ に沿ってスライドする開閉自在に設けられた開閉蓋 ４ と、開閉蓋 ４ の開閉方向 X の開方向側部分 (図 ３ で紙面右側) を、閉方向側部分 (

50

図 3 で紙面左側) よりも上方に位置するように弾性的に押し上げて押圧するばね部材 5 (押圧部) と、開閉蓋 4 の裏面 4 b に突設された送出し部 6 と、を備えている。

【0019】

ここで、図 1 および図 2 に示すように、容器本体 3 の上端開口 3 a を水平方向に向けた状態において、平面視で開閉方向 X に直交する方向を容器幅方向 Z といい、開閉方向 X に沿った方向に沿うとともに容器幅方向 Z で容器本体 3 の中心を通る直線を容器軸 O という。また、取出し口 3 0 は、容器本体 3 の上端開口 3 a 上で開口方向 X の一端に位置しており、開閉方向 X に沿って取出し口 3 0 側を開方向 x 1 側といい、その取出し口 3 0 とは反対側を開方向 x 2 側という。また、開閉方向 X を含む水平面に垂直な方向を高さ方向 Y といい、高さ方向 Y に沿って容器本体 3 の底部側を下側、開閉蓋 4 の蓋面側を上側という。また、必要に応じて容器本体 3 の取出し口 3 0 側を前側とし、開閉方向 X でその反対側を後側として説明する。

10

【0020】

容器本体 3 は、図 3 に示すように、複数枚を積層させたフィルム 2 及びばね部材 5 を收容する収納部 3 A を備えた有底筒状に形成されており、平板状の底部 3 1 と、底部 3 1 の外周縁端部で一体的に連結する周壁部 3 2 と、収納部 3 A 内の後側で開閉方向 X に区画する板状の仕切り板 3 3 と、を備えている。

【0021】

周壁部 3 2 は、図 4 に示すように、容器幅方向 Z に対向する一对の側壁 3 2 A (図 2 参照) と、開閉方向 X に対向する前壁 3 2 B および後壁 3 2 C と、からなる。一对の側壁 3 2 A および後壁 3 2 C は、底部 3 1 から垂直に立ち上がっている。前壁 3 2 B は、図 3 に示すように、取出し口 3 0 から底部 3 1 に向かうに従って漸次、後方に向かって滑らかに湾曲するスロープ面 3 2 a が形成されるとともに、上端から前方へ向けて突出したフランジ状の鐳部 3 2 b が設けられている。この鐳部 3 2 b は、開閉蓋 4 が閉じられた状態において蓋天壁 4 1 の前端が重なることで取出し口 3 0 を閉蓋する部分である。

20

また、一对の側壁 3 2 A のそれぞれの外面側には、開閉方向 X に沿って延びる図示しない案内凹溝が形成されている。

【0022】

図 3 に示すように、底部 3 1 の上面には、容器軸 O 上の仕切り板 3 3 と後壁 3 2 C との間の位置に上向きに突出する係止突部 3 4 が形成されている。この係止突部 3 4 には、ばね部材 5 の後端に形成される係止穴 5 a が係合する。

30

仕切り板 3 3 の下端には、容器幅方向 Z の中央部分においてスリット 3 3 a が形成され、そのスリット 3 3 a にばね部材 5 の後述する固定端ばね 5 A が挿入されている。

【0023】

ばね部材 5 は、V 字状に折り曲げられたプラスチック製の板バネであり、折曲げ部 5 b を開方向 x 1 側に向けるとともに、容器本体 3 における開閉方向 X の中間部分に位置させて収納部 3 A に收容されている。ばね部材 5 は、折り曲げて延びる一端側の固定端ばね 5 A が底部 3 1 に係止され、他端側の自由端ばね 5 B が固定端ばね 5 A 側よりも長さが短く形成されている。その自由端ばね 5 B は、開方向 x 2 側の斜め上側に向けて延び、その付勢力によって収納されるフィルム 2 の開方向 x 2 側の後端部分 2 b を押圧して押し上げている。固定端ばね 5 A には、その後端側に係止穴 5 a が形成されており、この係止穴 5 a に底部 3 1 に設けられた前記係止突部 3 4 を挿入することによって固定されている。

40

自由端ばね 5 B には、上向き面の全体にわたってフィルム 2 が載った状態となっている。この状態において、フィルム 2 は、後端部分 2 b が先端部 2 a よりも上方となるように、前下がりに傾斜した姿勢で収納部 3 A 内に収納されている。

【0024】

なお、ばね部材 5 の幅寸法、厚さ寸法、材質は任意に設定することができる。例えば、複数枚のフィルム 2 を押圧可能な付勢力が得られる程度で、容器幅方向 Z を小さくすることで、部材費を抑えることができる。

【0025】

50

図 3 および図 5 に示すように、開閉蓋 4 は、送出し部 6 が容器本体 3 内に収納されているフィルム 2 に対して接触しない非接触位置 P 1 (図 6 (a)) と、ばね部材 5 の押圧力に抗しつつ、送出し部 6 でフィルム 2 の上方から摩擦力を付与する摩擦発生位置 P 2 (図 6 (b)) と、の間を開閉範囲としている。

開閉蓋 4 が非接触位置 P 1 のときには、フィルム 2 を収納した状態において、送出し部 6 とフィルム 2 とが非接触状態であり、送出し部 6 によってばね部材 5 に抗してフィルム 2 を押し下げることがない。

【0026】

開閉蓋 4 は、図 5 に示すように、蓋天壁 4 1 と、その蓋天壁 4 1 の前側を除く両側部、後部の外周縁から下方 (蓋天壁 4 1 の裏側) に向けて延びる一对の側壁 4 2 および後壁 4 3 と、からなり、容器本体 3 に対して外嵌するとともに、閉方向 x 1 側が開口した形状となっている (図 3 参照)。

【0027】

蓋天壁 4 1 の裏面 4 b には、開閉方向 X の中間部分に、前側から後側に向かうに従って漸次上方へ向けて延びる段部 4 1 a が形成されている。そして、この段部 4 1 a より前側が肉厚部 4 1 b をなし、段部 4 1 a から後側で天面が高くなるように薄肉部 4 1 c が形成されている。肉厚部 4 1 b には、その下面に前記送出し部 6 が所定高さをもって突設され、その送出し部 6 の後端には、下向きに突出する当接片 4 4 が固着されている。

【0028】

また、蓋天壁 4 1 の肉厚部 4 1 b には、上面に指の一部に係止可能な凹部 4 1 d が形成されている (図 1 および図 2 参照)。この凹部 4 1 d に指を掛止させることで、容器本体 3 に対して開閉蓋 4 を開閉方向 X に開閉操作することができる。

【0029】

一对の側壁 4 2 のそれぞれの外面側には、前記案内凹溝に嵌合するとともに、前後方向 X に沿って延びる凸条部 (図示省略) が形成されている。開閉蓋 4 は、前記凸条部が側壁 3 2 A に形成されている前記案内凹溝に沿って案内されて摺動することで、開閉方向 X にスライド可能となっている。

【0030】

送出し部 6 は、図 4 および図 5 に示すように、平面視で容器軸 O 上に位置し、当接片 4 4 よりも下側に突出しており、図 3 に示すように当該送出し部 6 の下面 6 a が容器本体 3 の収納部 3 A 内に收容されているフィルム 2 の上面 2 c に接触する部分となる。

【0031】

送出し部 6 は、フィルム 2 との摩擦係数が、積層されているフィルム 2 同士の摩擦係数より大きくなるように選ばれた例えばゴム、シリコン、プラスチック等の材料・形状等によって形成される。そのため、送出し部 6 は、フィルム 2 と摩擦接触し、開閉蓋 4 の開閉動作に伴ってフィルム 2 を閉方向 x 1 側に向けて移動させることができ、その際、送出し部 6 とフィルム 2 との間の摩擦力は、移動させるべきフィルム 2 とその直下層にあるフィルム 2 との間に作用する摩擦力より大きくなっているから、最上層より下の層にあるフィルム 2 を移動させる力は小さく、最上層より下の層にあるフィルム 2 の束は、仮に移動しても容器本体 3 の内部前端の前壁 3 2 B に当接することによって容器本体 3 から出ないようになっている。

【0032】

なお、送出し部 6 の材質としては、上記の他に、金属材料でもかまわない。また、送出し部 6 の下面 6 a には、摩擦抵抗材 (図示省略) を設けるようにしても良い。これにより、送出し部 6 とフィルム 2 との摩擦力を高めることができ、より確実な送り出しを行うことができる。

さらに、送出し部 6 の下面 6 a は例えば表面を粗したシボ加工等により成形したものをを用いることも可能である。

そして、この送出し部 6 は開閉蓋 4 の蓋天壁 4 1 と一体成型により形成することも可能である。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 3 】

また、容器本体 3 には、収納されているフィルム 2 を上方から保持するとともに、フィルム 2 の後退動を規制する押さえ付け部 7 が設けられている。押さえ付け部 7 は、ばね部材 5 の上方位置、容器本体 3 の開方向 x 2 側部分の上端開口 3 a を塞ぐように配置され、図 4 に示すように、容器幅方向 Z の中央部に前方に開口する切欠き凹部 7 a が形成されている。切欠き凹部 7 a の底部は、開閉蓋 4 の開蓋とともに開方向 x 2 側に移動する当接片 4 4 を当接させるための係止部 7 b となっている。つまり、押さえ付け部 7 は、開閉蓋 4 をスライドさせて開いたとき、当接片 4 4 が係止部 7 b に当接することで、開閉蓋 4 がそれ以上開かないようになっている。

【 0 0 3 4 】

10

次に、上述したように構成されたフィルム容器 1 の作用について説明する。

図 6 (a) に示すように、本実施形態では、容器本体 3 に収納されたフィルム 2 を取出し口 3 0 から取り出す際、開閉蓋 4 が閉じられた状態で、開閉蓋 4 を非接触位置 P 1 から開方向 x 2 側にスライドさせて図 6 (b) に示す摩擦発生位置 P 2 まで開蓋すると、フィルム 2 の後端部分 2 b が弾性的に押し上げられた状態で押圧されているので、送出し部 6 と最上層に位置するフィルム 2 の上面とが接触しつつ、フィルム 2 の上方から摩擦力を付与することができる。このとき、フィルム 2 は送出し部 6 によってばね部材 5 の付勢力に抗して上方から押し下げられ、送出し部 6 との間に摩擦力が付与された状態となっている。

なお、開閉蓋 4 は、摩擦発生位置 P 2 の位置で、当接片 4 4 が押さえ付け部 7 の係止部 7 b に当接することで、開蓋が停止される。

20

【 0 0 3 5 】

そして、図 6 (c) に示すように、摩擦力が付与された摩擦発生位置 P 2 から開閉蓋 4 を閉方向 x 1 側に向けてスライドさせると、送出し部 6 とフィルム 2 との摩擦により、送出し部 6 と接触しているフィルム 2 のみが 1 枚ずつ取出し口 3 0 側へ送り出され、そのフィルム 2 の閉方向 x 1 側部分を取出し口 3 0 から突出させて、取り出すことができる。

【 0 0 3 6 】

このとき、送出し部 6 によって閉方向 x 1 側に向けて送り出されたフィルム 2 の閉方向側の先端部 2 a を、容器本体 3 のスロープ面 3 2 a に沿って取出し口 3 0 に向けて誘導させることができる。つまり、開閉蓋 4 は閉蓋するに従えばね部材 5 による押圧力が解放される非接触位置 P 1 に移動し、送出し部 6 がフィルム 2 から離れ、フィルム 2 と送出し部 6 との間に生じる摩擦力が低下する。このとき、前記スロープ面 3 2 a に沿ってそのフィルム 2 の先端部 2 a が上向きに押し上げられるので、送出し部 6 とフィルム 2 との接触状態を保つことができる。そのため、送出し部 6 とフィルム 2 との間の摩擦力の低下が抑えられ、スロープ面 3 2 a に沿って取出し口 3 0 側にフィルム 2 の先端部 2 a が案内されてその先端部 2 a を取出し口 3 0 より突出させることができる。

30

【 0 0 3 7 】

本実施形態では、フィルム 2 が、開方向 x 2 側部分が閉方向 x 1 側部分よりも高くなるようにばね部材 5 によって押し上げられ、傾斜した姿勢となっているので、非接触位置 P 1 において、開閉蓋 4 の裏面に突設されている送出し部 6 がフィルム 2 に接触することがない。そして、開閉蓋 4 を開方向 x 2 側に向けてスライドさせることで、フィルム 2 の上面に対して送出し部 6 が近接し、少しずつ滑らかに接触させることができる。

40

【 0 0 3 8 】

すなわち、開蓋開始時は非接触状態なためフィルム 2 を送出し部 6 で開方向 x 2 側に引き込むことがなく、送出し部 6 がフィルム 2 の開方向側部分に接触する位置に移動したときに、所望の摩擦力が送出し部 6 からフィルム 2 に付与されることになる。そのため、フィルム 2 が開閉蓋 4 の開方向 x 2 側への移動とともに送出し部 6 によって引き込まれることによって変形するのを抑制することができ、送り出しがスムーズとなり、取出し口 3 0 から取り出した状態のフィルム 2 の品質を確保することができる。

【 0 0 3 9 】

50

また、本実施形態では、容器本体 3 に押さえ付け部 7 が設けられているので、開閉蓋 4 が非接触位置 P 1 にある場合であっても、容器本体 3 内で収納されているフィルム 2 を押さえ付け部 7 によって所定の高さに保持することができる。そのため、最上層に位置するフィルム 2 の高さが、収納されるフィルム 2 の枚数によって変動することがなく、常に一定の摩擦力をフィルム 2 に付与することができるので、安定した取り出しが可能となる。

【 0 0 4 0 】

以上、本発明に係るフィルム容器の実施の形態について説明したが、本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

【 0 0 4 1 】

例えば、本実施の形態では、フィルム 2 の開方向 x 2 側部分（後端部分 2 b）を、閉方向 x 1 側部分よりも上方に位置するように、ばね部材 5 によって弾性的に押し上げ、収納されるフィルム 2 b の先端部 2 a が下がる傾斜姿勢となる構成としているが、これに限定されることはない。つまり、フィルム 2 の開方向 x 2 側部分に対してばね部材 5 等の押圧部によって弾性的に押圧した状態であれば、フィルム 2 の開方向 x 2 部分が閉方向 x 1 部分よりも上方に位置しない姿勢であってもかまわない。

【 0 0 4 2 】

また、本実施の形態では、ばね部材 5 を容器本体 3 と別体としているが、容器本体 3 と一体成形としてもよい。この場合、ばね部材 5 と容器本体 3 とが別体である場合のように、ばね部材 5 が容器本体 3 から外れたり、脱落するのを防ぐことができる。

【 0 0 4 3 】

また、本実施の形態では、容器本体 3 の前壁 3 2 B にスロープ面 3 2 a を形成しているが、このような湾曲面形状とすることに限定されることなく、傾斜面とすることも可能である。また、傾斜面や湾曲面を設けない形状であってもかまわない。

【 0 0 4 4 】

また、上記実施形態では、容器本体 3 の上端開口 3 a 上に取出し口 3 0 を設けているが、この位置であることに制限されることはない。例えば、図 7 の実施形態のように、容器本体 3 の上端開口からフィルム 2 を取り出すのではなく、容器本体 3 の前壁 3 2 B から取り出すフィルム容器 1 A であっても良い。このフィルム容器 1 A は、容器本体 3 のスロープ面 3 2 a（前壁 3 2 B）の開閉方向 x で中間部分にスリット形状に開口する取出し口 3 0 A を備えている。この取出し口 3 0 A は、収納部 3 A に収納されているフィルム 2 の束の最上層の 1 枚が送り出される方向の略延長線上に位置している。この場合、送出し部 6 の摩擦力が付与された状態で開閉蓋 4 を閉じることで、最上層の 1 枚のフィルム 2 が送り出され、フィルム 2 の先端部 2 a がスロープ面 3 2 a に接触せずに取出し口 3 0 A から突出し、フィルム 2 を取り出すことができる。

【 0 0 4 5 】

さらに、容器本体 3、開閉蓋 4 の形状、大きさなどの構成は、必要に応じて適宜変更することが可能である。

【 0 0 4 6 】

その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、上記した実施の形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 7 】

- 1、1 A フィルム容器
- 2 フィルム（フィルム状部材）
- 2 a 先端部
- 2 b 後端部分
- 3 容器本体
- 3 A 収納部
- 4 開閉蓋

10

20

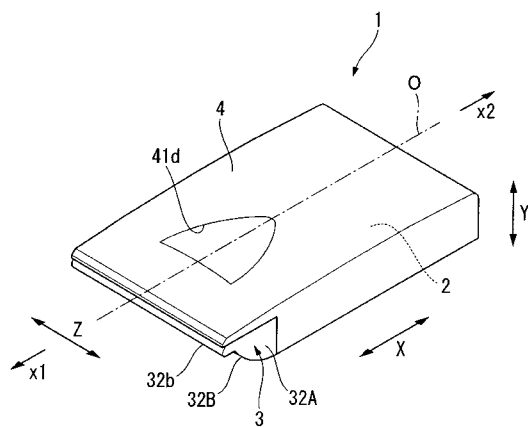
30

40

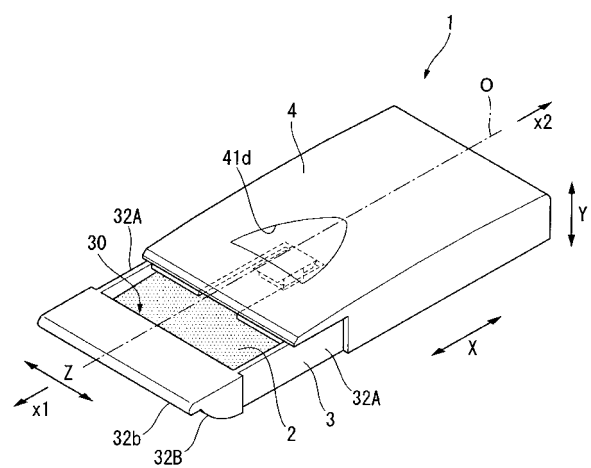
50

- 5 ばね部材（押圧部）
- 6 送出し部（送出し部）
- 6 a 下面
- 7 押さえ付け部
- 30、30A 取出し口
- 32a スロープ面
- O 容器軸
- X 開閉方向
- Y 高さ方向
- Z 容器幅方向
- x1 閉方向
- x2 開方向

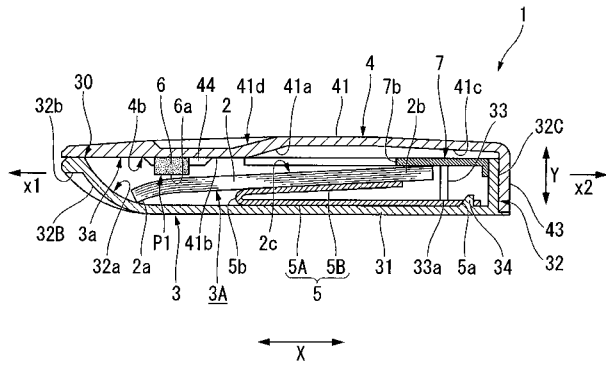
【図1】



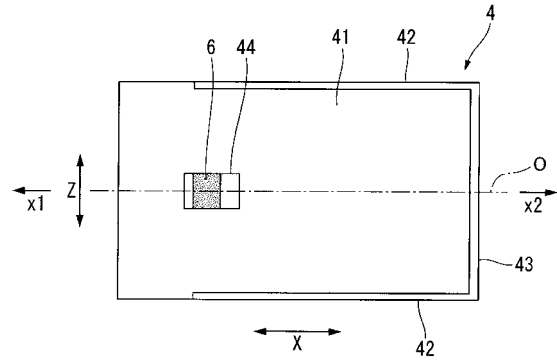
【図2】



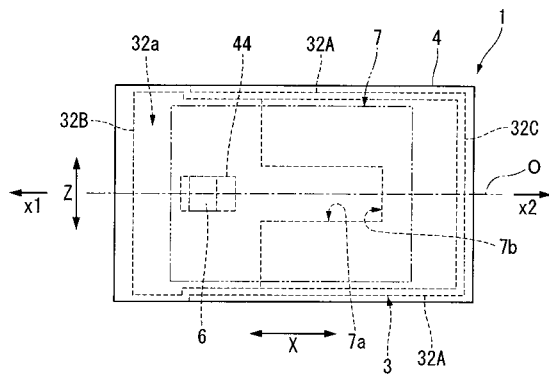
【図 3】



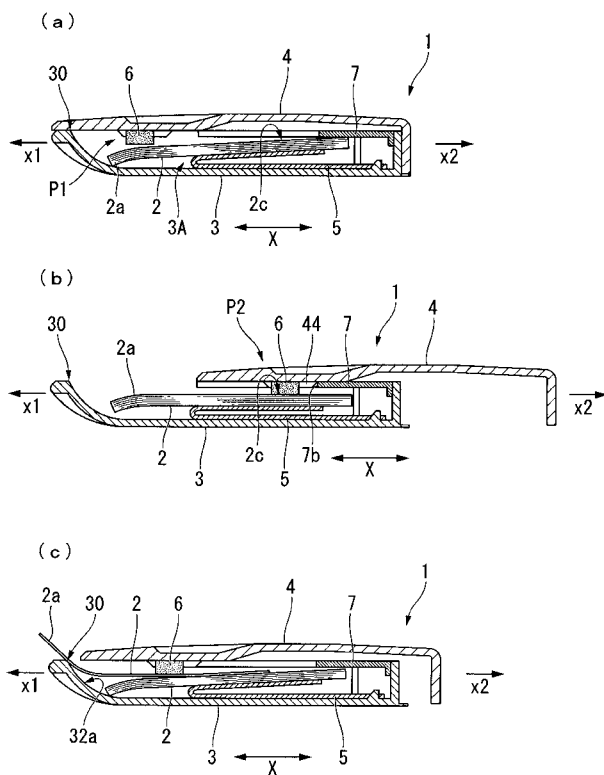
【図 5】



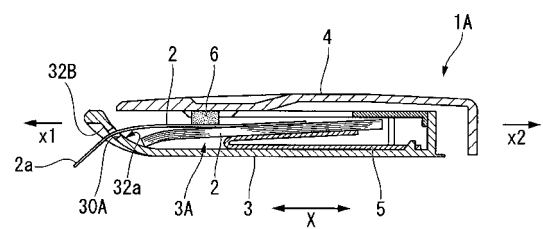
【図 4】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(72)発明者 伊藤 和樹

東京都墨田区本所一丁目3番7号 ライオン株式会社内

Fターム(参考) 3E014 MC02 MC04